資料１

# 令和５年度 第１回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日　時：令和５年７月１２日（水）１０時００分～１２時００分
場　所：尾道市立大学Ｅ棟１階１２０会議室
出席者：尾道市公立大学法人評価委員会　萩原委員長、瀬戸委員、豊田委員、高垣委員

その他の出席者
　事務局（尾道市総務課）　　山口総務課長、三木係長、石井主任
　オブザーバー　　公立大学法人尾道市立大学　　藤澤理事長、荒井理事兼副学長、
信木理事兼副学長、寺山理事兼事務局長、
中村芸術文化学部長、
野田企画広報室長、土岸総務課長、
福田学務課長、
若松企画広報室長補佐兼企画広報係長

報告事項：１　令和４年度第２回尾道市公立大学法人評価委員会 書面審議概要について
　　２　公立大学法人尾道市立大学令和５年度年度計画について

議　　題：１　公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について
　　２　令和４事業年度に係る業務実績評価について
　　３　公立大学法人尾道市立大学第３期中期目標（原案）について
　　４　その他

【報告事項】
１　令和４年度第２回尾道市公立大学法人評価委員会　書面審議概要について
　令和４年度第２回尾道市公立大学法人評価委員会　書面審議概要について事務局から説明を行った結果、特に意見はなく、速やかに公開することとした。

２　公立大学法人尾道市立大学令和５年度年度計画について
　公立大学法人尾道市立大学令和５年度年度計画について法人から説明を行った結果、異議はなかった。

【議　　題】

1　公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について

公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について事務局から説明を行い、審議の結果、全会一致で承認された。

2　令和４事業年度に係る業務実績評価について

公立大学法人尾道市立大学の活動報告について、法人から説明を行った後、公立大学法人尾道市立大学の年度業績評価方法について、事務局から説明を行った。この後、各委員が評点と特記事項を作成し、次の評価委員会で協議することとした。その後、各委員から次のような意見があった。

（委員）新型コロナウイルス感染症対策が変わりつつあるなかで、オンライン授業と対面での授業の新しいバランスが求められると思うが、今後はどのような授業形態にする予定か。

（法人）基本的には対面授業を重視している。教育上効果的な場合にのみ申請をし、認められた場合にオンライン授業をしていく。

（委員）学則の変更があったが、どのような箇所で変更があったのか。

（法人）メディア授業は、文科省の中でオンラインも認められるとなっているが、学則上は条項自体がなかったので、新たに加えた。また、各学部学科のポリシー等の改正があったので、ポリシーの変更と合わせての改正を行った。

3　公立大学法人尾道市立第３期中期目標（原案）について

公立大学法人尾道市立第３期中期目標（原案）について、事務局から説明を行った後、各委員から次のような意見があった。

（委員）生成ＡＩの関心が高まっていると思うが、中期目標に記載はしないか。口頭でも触れた方がよいのではないか。

（法人）大学として、生成ＡＩを否定するものではないが、安易に使用するものではないと考える。中期目標は長期的、流動的であるため現段階では記載することは考えてない。

（委員）６年先まで見通した計画の中に記載するのは難しいかもしれない。あえて言えば、教育の質の向上の中に情報通信技術ＩＣＴを活用した授業など、いう文言の中に含まれていると捉えることもできる。

（委員）地域貢献について、「地域に入り、地域で学び、地域に還し、地域から発信して

いく大学」との記載があるが、今まで地域と密接にやってきた教員が退職したのち、どのように地域と接点を持って学生に学ぶ機会を与えるかを危惧している。より一層、地域社会企業諸団体との連携協働をお願いする。

また、目標の中にはないが、尾道大学がどのような形で日本の中で光り輝く大学になるか、より多くの学生に来てもらえるよう、例えば経済情報学部では、尾道は観光の街でサービス業等いろんな意味で今後期待されると思うので、商売に目を向けた経営に関する指導が増えればよいと思う。

（法人）細かな表現になるので目標の中に記載はできないが、現在経済情報学部の専門演習の中で学生を連れて街に出ている授業がある。これを継続し、同様に日本文学科や美術学科も行いたいと考えている。

また、経済同友会の方たちとの交流の場を増やし、繋がりをより強化していきたいと考えている。

（委員）地域との交流という点では、島しょ部の因島・瀬戸田の方々も尾道大学との交流を望んでいる。

（法人）コロナ禍以前に因島で講座を行ったことはある。さらなる交流の場を検討したい。

（委員）光原先生・小川先生引退により、４大に変わって以来のピンチと感じている。ピンチはチャンスであり、大学でどんなことが学べるか、有名な先生がいるか、中身で選択される。

人口１３万人程の地方都市で１００年以上続く企業が多くあり、商店街が栄えているまちは全国的にも少ない。尾道で学び、フィールドワークで現地の人と交流があるという点をもっと発信すべきだと思う。地域といかに連携しているか、尾道の場をいかに使っている大学かという点を強く発信しないとこの大学を選ぶ人は少なくなると思う。今後大学が生き残るために何をすべきか、今から考えないと強く感じている。

学科・コースにメスを入れて、ここでしか学べないことをＰＲするべきだと思う。

（法人）学生が尾道に来てよかったと思える大学にしたいと考えている。学部再編は難しいが、現学部学科の中でさらに努力を重ねていきたいと考えている。

（委員）就職率では尾道での就職が少ない。尾道大学で学ぶことで地域の繋がりができ、その後尾道で自営業を始めた卒業生もいるので、卒業時に就職先が決まった学生のデータだけを載せるのではなく、そういった学生も大学のメリットとして大学総会の資料等で可視化することも大事だと思う。

（法人）ケーブルテレビやＦＭおのみち、美術館の方で就職した学生が出た時は広報に載せているが、意見にあるような活躍をしている卒業生を見出して広報していきたいと考える。

（委員）国際交流についてとあるが、新型コロナウイルス感染症のため留学は中止があったかと思うが現状はどうか。受け入れは再開されたのか。

（法人）全体的にコロナで一旦活動は止まったが回復状態である。今年度ヨーク大学への募集をしたが、参加人数が足りず実施できなかった。次年度は実施できるかと思う。

（委員）　留学先にヨーロッパを増やすのはどうか。美術学科だけではなく経済に関しても、尾道はヨーロッパと少し似ているところもあり、商店街や日曜日に開催されるマルシェ等、まちの造りや経済のあり方を学べるいい機会だと思う。

（委員）先ほど就職の話で、福山市立大学が福山市内の就職率４０％を超えているが尾道は３％程度である。福山は経済界が数値目標をもって取り組むよう働きかけている。尾道市内の就職率についても同様に取り組むべきだと思う。

　また、タウンマネジメント専門家による講座等、マネージメントを学ぶ機会を増やしてもらいたいと思う。

　最後に卒業生の力を借りて尾道大学をブランディングするというのは非常に重要なことなので、同窓会組織をしっかり構築しておく必要があると思う。

（法人）最初に指摘いただいた就職に関してだが、まずキャリアサポートセンターが中心に尾道の企業のマッチングを増やしていくことから始めたいと思っている。また、タウンマネジメントや同窓会組織の構築についてもこれから検討していきたい。

（委員）第二期に比べると第三期は留学生について、受入れは熱心だが送り出しはそこまでではないと印象を受けた。グローバル化の促進について、「留学生の動向を分析し」という記述があり、学生にとって魅力ある教育プログラムの構築というのはグローバル化に関係したことだと思うので送り出す方も目標に入れてもらいたい。

　また、業績評価制度の確立というのが前回目標上がっていたが、これが廃止となって今削除となっているのは業績評価制度というのは確立されたのでこのまま運用していくという意味か。

（法人）特に送り出しを少なくするとは考えておらず、さらに送り出せるように努力したいと考えている。業績評価制度については確立されたと判断している。

4　その他について、委員の委嘱について事務局から委員全員から継続の了承を得たため、委嘱事務を進めることを説明した。